



やまぐち まお  
**山口真緒さん**  
堺市立はるみ小学校教諭

大阪市出身。平成23(2011)年に国際基督教大学を卒業し、大学院専門職学位課程小学校教員養成特別コースに進む。25(2013)年、現任校に着任。今年度は4年生を担当している。



ふじもと たかひと  
**藤本孝仁さん**  
稲美町立天満南小学校教諭

稲美町出身。平成14(2002)年、学校教育学部生活・健康系専修コースを卒業。24(2012)年から今年3月まで、青年海外協力隊の一員としてナミビアのオヴィカンゲ小学校に派遣された。帰国後、現任校に復帰し、6年生を担当している。

→登校してクラスに入ってくる子どもたちに笑顔であいさつ



→ナミビアでの体育の授業。ゴールでハイタッチすることで一生懸命に走ることを促します



## 楽しい授業に向けて 笑顔で一日のスタートを

「おはよう！今日も一番乗りやね」。朝一番に教室に行き、子どもたちを笑顔で迎えるのが私の日課です。教員になって1年目の昨年度、「楽しい授業をしたい」と意気込むも、学級経営がきちんとできなければ楽しい授業はできないということを思い知りました。

思い悩んでいたころ、大学院時代に「毎朝、子どもたちを笑顔で迎えることで、子どもたちが楽しく安心して一日のスタートを切ることができ

「おはよう！今日も一番乗りやね」。朝一番に教室に行き、子どもたちを笑顔で迎えるのが私の日課です。教員になって1年目の昨年度、「楽しい授業をしたい」と意気込むも、学級経営がきちんとできなければ楽しい授業はできないということを思い知りました。

実践してみると、次第に子どもたちから話し掛けてくる機会が増え、授業もより活発になりました。楽しい授業をする以前に、教員としての大切な心構えが分かったような気がしました。

在学生の皆さん、今学んでいることは教員になった時に必ず役に立つことばかりです。将来、学生時代の経験を生かし、子どもたちに還元してください。

## 子どもたちの笑顔は宝物 ナミビアで初心を取り戻す

原点に  
点回帰。小学校教員になって10年がたったころ、在学中に描いていた理想の教師像とは程遠い自分の姿にもどかしさを感じていました。現状を打破すべく、長年の夢だった青年海外協力隊に志願し、平成24(2012)年から約2年間、ナミビアの小学校で教育活動に従事しました。

気候、文化、言語など何もかもが違う環境に身を置き、教育とは何かという原点に立ち返りながら、現地の子ど

もたちにできることを精いっぱいやりました。「環境は違っても子どもたちの笑顔は宝物。この宝物を守るために教員を目指したのだ」「幸せとは自分で決めるものなのだ」。忘れかけていた気持ちを思い起こしました。

在学生の皆さんも、教育現場に出て理想と現実との違いに悩み、苦しむことがあるでしょう。そんな時、自分はどうして教員になりたかったのかという原点に立ち返ることも大切だと思います。

### ▶同窓会・都道府県連携推進本部からのお知らせ 教育実践研究活動等に係る表彰について

8月9日、10日に山口市で開催した第34回大学院同窓会山口大会で、平成26(2014)年度「教育実践研究活動等に係る表彰」を行いました。この表彰は、教育実践研究活動等に顕著な成果を挙げ、大学や大学院同窓会の名誉を著しく高

めた修了生が対象。今年は4人を表彰しました。詳しくはHyokyo-netをご覧ください。

◎被表彰者(敬称略)

嬉野賞/佐倉義信(4期・言語系、大阪府)、福山逸雄(1期・生徒指導、沖縄県)

奨励賞/成澤真介(17期・障害児教育、岡山県)、藤本浩行(17期・教育方法、山口県)